新東名高速道路建設に伴う発掘成果

西富岡（にしとみおか）・向畑（むこうばた）遺跡

主催　（公財）かながわ考古学財団

共催　伊勢原市教育委員会

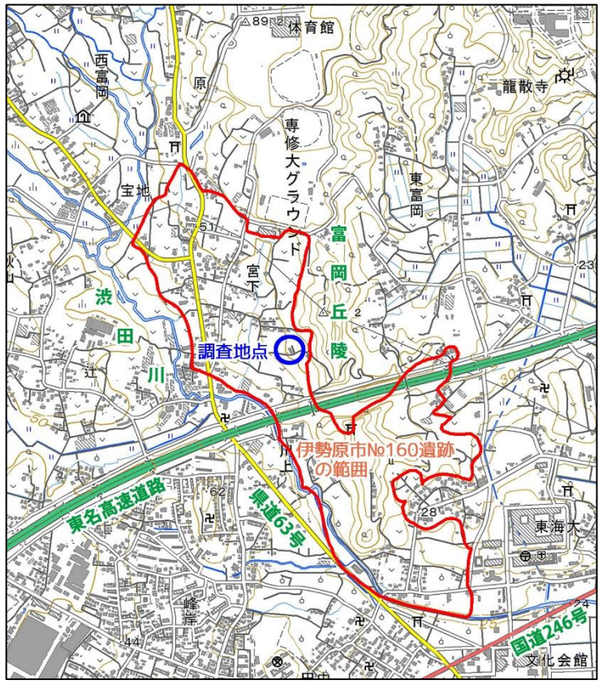
大昔の地滑りの下から縄文時代の森を発見！

西富岡（にしとみおか）・向畑（むこうばた）遺跡の発掘調査

伊勢原市西富岡に所在する西富岡・向畑遺跡は、中日本高速道路株式会社が計画する新東名高速道路建設に伴う事前調査として、2007 年４月から発掘調査を実施しています。

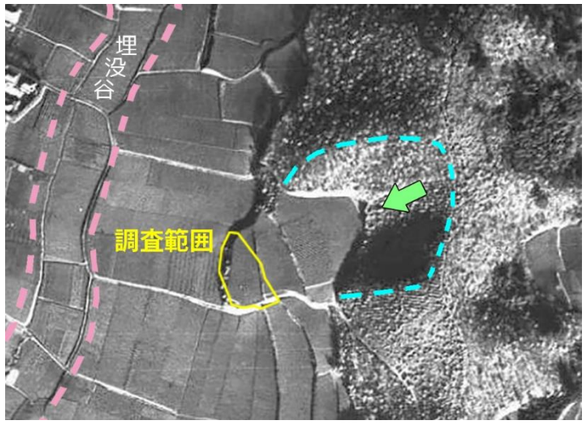
西富岡・向畑遺跡では、これまでの調査によって、中世の建物跡や道、古墳時代末から平安時代にかけての集落跡、縄文時代中期から後期にかけての台地上の集落跡、谷部からはクルミやトチの実などの堅果類が多数出土した水場遺構などが発見されており、たくさんの遺物が出土しています。今回は、最後の調査区から見つかった非常に珍しい縄文時代の埋没林を中心に、発掘調査の成果を紹介します。

埋没林調査の様子



遺跡の位置

上の写真は、今回の調査区を北西から撮影したものです。縄文時代中期中葉～後期前葉の集落跡が拡がるエリアのすぐ東側の山裾です。調査区周囲は、古墳時代と縄文時代の遺構面の間に地滑りによって山から滑り落ちた土砂が堆積しています。その土砂の下から縄文時代中期～後期の土器片などの遺物とともに埋没林が発見されました。なぎ倒された樹木のほか、森の中に生えていた笹や緑色をした木の葉、昆虫、鳥の羽（！）など初めて見るものも出土しています。



上の写真は、1949 年に撮影された調査範囲周辺の空撮です（国土地理院 Web サイト掲載を元に加工）。丘陵の斜面が青点線付近を境に地滑りを起こして南西方向（左下方向）滑り落ち、崩れた土砂が台地状の押し出し地形となっていることがわかります。今回の調査範囲はその先端に当たります。また、西に約 100mには、縄文時代の水場遺構（木の実の水さらし場）が見つかった埋没谷があり、窪地状の痕跡として残っているのがわかります。

上の写真は、古墳時代後期の竪穴住居跡の調査後に、地滑りの堆積層を掘り下げた断面です。下部に見える黒色の土が埋没林を含む土層です。地滑りによりおよそ５ｍの厚さでローム層が流れ込んでいることがわかります。このローム層にパックされた埋没林を含む黒色の土層は水分を多く含んでおり、そのことが埋没林が残った大きな要因の一つです。

地滑り層上部の調査状況（南西から）

地滑り層の上には、古墳時代後期の竪穴住居跡が３軒見つかっています。地滑り災害は古墳時代後期よりも前に起こったことが発掘調査の成果からわかります。

上の写真は、伊豆半島の天城カワゴ平火山の噴火で積もった火山灰で、今からおよそ 3,170 年前の縄文時代後期に降ったことが判っています。埋没林のあちこちの木の周囲からこの火山灰が確認されており、カワゴ平火山灰が降ってからそれほど経っていない頃に埋没したのではないかと推定されます。

新東名高速道路建設に伴う発掘成果

西富岡・向畑遺跡(伊勢原市№１６０)

２０２１年４月１７日

公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL:045-252-8689

http://www.kaf.or.jp

おおよその年代

35000年前　15000年前　2500年前　1700年前　1300年前　800年前　400年前　150年前

旧石器時代　縄文時代　弥生時代　古墳時代　古　代　中　世　近　世

赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。